病児保育協議会 NEWS
一般社団法人 全国病児保育協議会ホームページ http://www.byoujihoiku.net/
第86号
2017年（平成29年）1月1日
〔発行人〕 会長 大川洋二（大川こども&内科クリニック）
〔発　行〕一般社団法人 全国病児保育協議会事務局
〒160-8306
東京都新宿区西新宿5-25-11-2F ㈱日本小児医事出版社内
FAX.03-5388-5193

新年のご挨拶

一般社団法人 全国病児保育協議会 会長　大川　洋二
大川こども内科クリニック OCFC 病児保育室うさぎのママ

新年明けましておめでとうございます。本年も子どもたちが病気になった時、速やかに回復して健やかに過ごせる環境づくりに邁進しましょう。今年はトリ年です。トリというと大空を飛び回る鳥や卵を生み出す鶏を想像します。でも酉年の酉とは酒壺のことのようです。収穫した果実が熟成しておいしいお酒になっていくところです。丁度協議会が発展して実りある専門家集団になっていく様を表しているようです。

私は昨年の総会より会長を拝命しました。この機会に私の抱負を述べさせていただきます。病児保育は当初女性の就労支援を目的として始められましたが、現在では子供中心の保育の一環として病児を預かる制度となっています。病児が速やかに、確実に安全に回復する環境を提供すること、それは育児支援の形となり保護者に安心感をあたえます。そして結果として保護者は就労に勤しみ、帰宅後は子どもと親密なひと時を過ごし、親子の愛着を育成する制度です。この制度をより強固にするためにはまだなすべきことがあります。

それは協議会機構の強化、病児保育の専門性の確保、病児保育の体系化です。

協議会機構の強化とは協議会が統合して活動する（ガバナンスの確保）、各自が与えられた使命を果たす（コンプライアンスの遵守）、目的到達のための戦略（ストラテジーの策定）、実際の行動予定（タクティクス作成）そして行動（アクション）です。組織の強化には加入施設の増加が必要であり、全国での組織率の上昇も大切となります。現在協議会の業務についてはその分担化を図り、協議会活動の企画・検討業務は総務担当理事（佐藤勇理事、原木真名理事）、協議会の財産・予算決算関係は経理・財務担当理事（佐藤里美副会長）にお願いし、私は会長職の仕事に専念する予定です。

病児保育の専門性については総会時の各種委員会のセミナー、またブロック研修会への参加などを通じて会員の皆様に広く研修機会を設け、病児への保育力の育成に励んでいただきます。病児保育専門士制度は既に259人の病児保育専門士を送り出し各施設での中核的スタッフとして、保育業務あるいは後輩保育士の指導を担っております。この制度は病児保育力の再確認と知識の応用力養成を行い、その専門性を確保し、権威を与えるものです。病児保育の将来ビジョンについては病児保育在り方委員会（稲見誠委員長）を新設し検討いたします。ここでは内閣府、厚労省、文科省との交渉に関する基本的ないし実際的な方針をまとめ、皆様と共に検討します。病児保育施設への援助やお迎え制度などの新制度が安心して利用できるように考えていきます。

病児保育の体系化も今後の大きな活動の柱です。病児保育に関する旧来の考え、すなわち病気の子どもは親が看るべきだとの考えから派生する親子間の愛着形成阻害、あるいは施設内での感染症の広まり、事故の危険性です。私たちはエビデンスを基に答えていかなければなりません。会員皆様の献身的ご努力により病児保育は愛着形成の場になる、あるいは保育園より感染は少ない、施設での重大な事故報告はいまだない等のエビデンスが報告されております。この疑問に対するエビデンスの集積と論文化により病児保育は単に働く母親が開設した、病気の子どもを預かる施設から、病気になった乳幼児にとってなくてはならない機能を持った病児保育施設に変わることでしょう。子供たちが常に最適な条件下で保育を受ける環境は保育園と病児保育施設から構成され、それこそが世界に先駆けた最高の保育制度として完成することとなるのです。私たちが積み上げるエビデンスを基に病児保育学が確立し、病児保育にそのアイデンティティーを与えることとなります。その為には総会での一般演題の発表と専門誌である病児保育研究誌への投稿が大切です。

少子化に窮する日本にとってその危機を脱する切り札は私たち病児保育協議会が握っているのです。

副会長就任のご挨拶と抱負

一般社団法人 全国病児保育協議会 副会長　杉野　茂人
杉野クリニック みるく病児保育センター

今期、平成28年度より全国病児保育協議会の副会長を拝命致しました、熊本の杉野です。

一昨年になりますが、熊本で第25回全国病児保育研究大会を開催させて頂き、全国から多くの皆様にご参加いただきました。本当にありがとうございました。稲見会長ほか役員の先生方には、たいへんお世話になりました。皆様と病児保育に関わる様々な問題を協議・研修させていただき大変勉強になりました。ところが、それから８ヶ月後、平成28年４月14日・16日、熊本で、あの大地震が起こりました。地震後、熊本市内の殆どの保育園、幼稚園、学校は５月の連休明けまで休園、休校となりました。両親は仕事に行かなくてはならないが、余震の続く避難所や被害を受けた自宅に、子供だけ置いては出かけられないという声が増えました。昨年まで本協議会の副会長を努めた、当みるく病児保育センターの室長･永野は「何もしないではいられない！」“みるく寺子屋だあ！”と無料で40人も受け入れて昼飯まで食べさせ始めたのです。当然すごい状況になりましたが、何とか乗り切りました。

この経験で、病児保育室の地域での可能性と「病児保育室恐るべし」という状況を目の当たりにしたわけです。

日頃「地域の障がいを持つ子どもの小児在宅医療」に取り組んできた私は、「地域の小児医療で子どもたちの育ちを支える」ということが、病児保育と共通すると痛感した出来事でした。その経験から私は、「病児保育」に益々興味をもち、現在資格認定委員会委員長の永野和子氏の後を引き継ぐ形で副会長の大役を仰せつかったわけです。しかし、私は病児保育室に毎日いるわけではないので、わからないことも多く、保育士・看護師方、また利用者の方々からの声を聞きながら、小児科医の目で病児保育室の健全な運営のために大川会長をお支えし頑張っていきたいと思います。全国の病児保育に関わっておられる保育士・看護師、医師他の皆様、よろしくお願い致します。

ごあいさつ

一般社団法人 全国病児保育協議会 副会長　佐藤　里美
さとう小児科医院 病児保育室バンビーノ

今期２期目の副会長を拝命いたしました。大川新会長のもと、会長補佐をしっかり務められるよう努力して参ります。その一つとして今期経理・財務担当理事をお引き受けいたしました。委員会活動はじめ全国研究大会、支部研修会の開催など協議会活動が円滑に行えるよう、会計関係については明瞭かつ迅速な対応を事務局の皆様とともに進めて参ります。それに伴い会計報告の様式や処理方法につきまして多少の変更をお願いすることになります。会員の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

さて病児保育に携わるようになり15年になります。保育室では子どもたちと共に笑い、泣き止まない子どもに戸惑い、食べない飲まない子どもの対応に悩みながら、保育士さんとともに保育現場で汗をかくことを続けて参りました。先日嬉しいことがありました。保育室の近くで、ニコニコしながら歩いてくる女子高生に会いました。はにかんだ様子で「こんにちは。」と挨拶してくれたその子は、10年ほど前までよく病児保育を利用していた女の子でした。小さい頃はよく泣いて抱っこから離れられない子でしたが、病児保育に来たことを覚えていてくれて、そのキラキラした眼差しにとても心温まりました。病児保育の中心は子どもたちであり、不安を抱える子どもたちの気持ちに十分寄り添い、病児保育室に来てよかった、預けて良かったと思っていただけける保育看護を提供したいといつも思っています。偶然の出会いが15年を節目にこれ

までの取り組みを振り返らせてくれました。子どもの気持ちを大切にしているか、ひとりの人間として尊重した関わりが持てているか、ひとりひとりに適切な声掛けができているかなど基本的なことではありますが、再度原点に立ち返って保育看護を充実したものにしていきたいと考えております。今年も研究大会やブロック研修会などを通して質の高い保育看護を目指し、一緒に研鑽を積んでいきましょう。

みなさんのお力をお借りしながら

一般社団法人 全国病児保育協議会 副会長　**髙橋　広美**
砂原保育園 病後児保育室「とまと」

今期より、副会長を仰せつかりました髙橋広美です。

これまで保育園型プロジェクトのリーダーで、保育園併設の病児病後児保育が利用しやすく更に充実していくようにと、全国大会では保育園ＰＴの分科会を持ち、参加者と交流を重ねることが出来ました。地方で頑張っている施設を一つでも多く紹介し、全国にあっても同じ思い同じ方向で、病後児保育が発展することを願っておりました。

さらに、この度は副会長という重責を任され、当人が一番困惑しているところですが、みなさんのお力をお借りしながら、全国病児保育協議会のさらなる発展に努力したいと思います。

病児・病後児保育は、施設長の熱意とそこで働く職員の思いで成り立っています。特に保育の専門である保育士の働きなしには、病児・病後児保育は成り立ちません。35年近く保育の現場にいる私ですが、うまく行く時もいかない時もあります。そのたびに支えてくれたのが、現場の保育士さんたちでした。

保育所の保育とは少し違いはあるものの、未来を担う子ども達の今を支える尊い仕事として、保育士のみなさんを応援していきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

各種委員会の抱負

感染症対策委員会

委員長　**佐藤　勇**
よいこの小児科さとう 病児保育室よいこのもり

感染症対策委員会は、現会長の大川洋二先生がプロジェクトチームとして立ち上げガイドラインを作成されたのがその始まりとなっています。このガイドラインは、その後も改定をかさね、現在も多くの施設で使用されております。

感染症への対応は、病児保育室運営の要です。従って、その対応の基準は、多くの会員の皆様と共通認識をもてる内容でなくてはなりません。しかしながら、登園基準一つをとっても、決して科学的根拠がしっかりしたものではなく、国際的に標準化されたものはありません。こういった感染症を扱う際の基準に対して根拠を付加することも今後必要な作業になると思われます。

病児保育室は「園児のほとんどが感染症を有する状態」という特殊な状況の中で保育を行っています。そこで起こっていることを、きちんと解析できるなら、ある時期集団で共に育つことが不可欠な子ども達にとっても、有用な情報になると思われます。そのためには、会員施設の皆様のご協力が必要です。施設内感染の事例など、各施設の経験一つ一つを集積し、エビデンスレベルを高めることが必要だと思います。また、その経験を共有する事で、各施設のレベルアップを計ることも出来ると考えます。今後とも、皆様の協力をいただきながら、委員会運営にあたってゆきたいと思います。よろしくお願いいたします。

調査研究・インシデント管理委員会

委員長　荒井　宏治
あらいこどもクリニック 病児保育「きりん」

調査研究・インシデント管理委員会は、病児保育協議会加盟施設の実態や実績の調査と各施設から報告されたインシデント・アクシデントの集積と分析を活動としています。毎年実施している実績調査は、主に個々の施設の利用状況から病児保育の社会的ニーズを調査しています。実態調査は各施設の運営状況や抱えている問題点を数年おきに調べており、昨年実施されました。現在、皆様からいただいたデータを委員会内で詳細に解析しております。皆様のご協力、ありがとうございました。これらは病児保育事業が利用者や運営者にとって、より改善されるように協議会が行政に働きかけをするための重要な資料にします。

インシデント管理については、病児病後児保育におけるインシデントをできるだけ多く把握することを目的に、全加盟施設にmims（病児保育施設向けインシデント管理システム）あるいは手書きのチェックリストで報告していただくことをお願いしています。そしてこれらのデータを統合し、集計、分析して研究大会等で報告します。それによって多くのインシデントが施設間で共有され、個々の施設のセーフティマネジメントの向上に還元されることを期待しています。今後とも皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

機関誌編集委員会

委員長就任の御挨拶

委員長　羽根　靖之
医）童心会 よいこ病児保育室

初代委員長原木真名先生の後任として、平成28年7月から委員長を拝命しました。三重県で病児保育施設の施設長をしています。果たして、私で委員長がふさわしいのか自問致しましたが、大川会長先生より、マネージメントをしてくれれば、周りは協議会の知恵袋と言える先生方でサポートするからという口説き文句に負けて、お引き受けすることになりました。

心配なのは、私自身が注意欠陥傾向の人間なので、うっかりミスをしないか懸念している点です。しかしながら、副会長を拝命していた際に、機関誌の巻頭言として『論文のすすめ』なんて文章を書いたので、機関誌に関与することは断れないと思っておりました。協議会が発展していく上で、機関誌は後世に足跡を残していく大切なものです。そのため、遣り甲斐を持って委員の皆様と協力して活動していきたい所存です。

機関誌の編集は、メーリングなどを通じての会議等で事業活動を進めることができます。前記のように、委員長をサポートしてくださる委員は会長経験者が4名の他、各分野においてご活躍の皆様と担当副会長、事務局の計12名で構成されています。また、論文の査読を担当して頂く先生方も増員して、小児医療、看護、保育の各分野から計23名の方に御協力頂くことになっています。

少し話は脱線しますが、只今、水曜日の夜に『校閲ガール』というドラマが放映されていますが、委員会活動は校閲、校正、企画などがメインになります。派手さはありませんが、決して根暗集団ではありません。丁度雑誌と同じで、協議会の表表紙にも裏表紙にもなる委員会だと思っております。

皆様から愛される機関誌作りのため頑張って参りますので、是非とも、先ずは機関誌を読んで頂きますことを祈念申し上げて御挨拶とさせて頂きます。

病児保育専門士認定委員会

委員長　永野　和子
みるく病児保育センター

新年 あけましておめでとうございます。

資格認定委員会では、「病児保育専門士」の認定に関わる、講習会の開催、口頭試問の実施、認定証の発行など様々な業務を行っております。

平成25年度から始まった、「病児保育専門士」の認定制度で認定を受けた方も、259名になり、全国各地で病児保育を通して「究極の子育て支援」を行うことのできる「病児保育専門士」の仲間が、年々増えていっていることを、とても喜ばしく思います。

今後は、病児保育専門士の資格取得に関することのみならず、病児保育の専門性を高め、質の向上に努めていく所存です。

そのために、まず病児保育専門士の、スキルアップ研修も企画していきたいと考えています。

その一環として、７月に大阪で開催される「第27回 全国病児保育研究大会in大阪」では、病児保育専門士のみが参加できる第２回目のセッションを開催いたしますので、専門士の方はぜひ、ご参加ください。

今後も、質の高い講習会を開催し、全国各地で安心安全な病児保育が展開されるよう、委員一同、努力してまいります。

※29年度の病児保育専門士講習会に関しては、５月ごろ別とお知らせいたします。

研修委員会

委員長　帆足　暁子
ほあしこどもクリニック

今期、研修システムや内容の検討を中心に、協議会としての研修のあり方を再構築していくことを第一に考えています。

現在、協議会では、研修委員会の研修と資格認定委員会の病児保育専門士研修が別系列で行われており、協議会の「研修」としての位置づけが明確に構造化されていませんでした。また、その内容の違いについても不明確であるとご意見を頂くことがありました。今年は、協議会として一本化された研修の構造を整理し、みなさまに明確なシステムとしてご提示できるようにしていきたいと考えます。

そして、基礎研修の内容も基礎保育・基礎看護として適切な内容になっているのかを吟味したり、小児医学講座の追加も検討し、基礎研修を受講することで、病児・病後児保育の職員の専門性の基礎が培われる内容にしていくことも目標としています。その上で、全国研究大会には参加できない遠方の方々にも保障すべく、出張講座についても広く普及できるように広報を考えることも必要だと考えています。そして、病児保育専門士の資格更新の対象研修でもある、全国研究大会のステップアップ研修につきましても、資質の向上に寄与できる研修とすべく、討議していくことになっています。これまでの講座形式ではなく、演習形式であったり、事例を持ち寄っての事例検討という提案も出ています。

平成３年９月の協議会発足から25年を経ました。14施設から始まった協議会も年々加盟施設が増え、法人化もされました。病児保育に携わる職員の専門性に対する社会のニーズも高くなっています。研修委員会ではその責務を認識し、専門性の質の保障及び向上を目指しつつ、これからの病児保育に求められる専門性につきましても追求しながら、研修という視点から、みなさまに還元できるように尽力していきたいと考えています。

倫理委員会

委員長　木野　稔
中野こども病院 アリス病児保育室

当協議会では、一般社団法人化にともない倫理委員会が設置されています。今期も引き続き委員長を拝命していますので、あらためてご挨拶いたします。職業倫理は、各職種の団体や所属施設の倫理綱領によることは周知のことと思います。例えば保育士では、保育者としての基本姿勢（保育マインド）、プライバシーの保護と守秘義務（個人情報の保護）、自己研鑽などについて理解し実践することです。一方、病児保育事業に関わる調査研究や事例発表においては、事前にその内容が倫理的に妥当かどうか事前審査を受けることが求められています。厚労省から出されている「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」では、倫理審査委員会の仕事として「中立的かつ公正に審査を行い、研究計画書の変更、研究の中止など必要な意見を述べることができる」となっています。弱い立場の人が同意なしにその研究によって不利益を被らないようにということです。これからの研究発表は倫理的な配慮がなされていないと、内容が如何に優れていたとしても一般社会には容認されないと言っても過言ではありません。所属施設に倫理委員会が設置されていない場合や、多施設で共同研究を行う際には、協議会の倫理審査委員会で行うことになります。倫理委員会規程、倫理委員会審議申請書はHPからダウンロードできるようにしていますが、倫理申請が必要かどうかの相談も受け付けますのでよろしくお願いします。

広報委員会

委員長　藤本　保
大分こども病院 キッズケアルーム

昨年は４月の熊本地震、８月の麻疹流行、10月の阿蘇山噴火、鳥取県中部地震、ほかにも台風・大雨による災害などで怒濤のような１年でした。現地の皆様の心労と尽力の日々に思いを馳せながら、広報委員会はおかげさまで変わらず協議会ニュースを年５回、滞りなく発行することができました。都道府県各支部の活動も活発で、報告が絶えず寄せられたことも喜ばしい限りです。

機関誌と研究大会の合間をつなぐように発行する協議会ニュースや可能な限り即時性を保って更新を続けている協議会ホームページ運営で、開設形態もさまざまな施設の皆様をつなぎ協議会に興味をお持ちのあらゆる人たちに協議会情報を発信するのが、広報委員会の務めです。今期もまた委員長を務めさせていただけることになり、協議会広報に力を注げることをうれしく思っております。

協議会では、今後、現行の紙媒体によるニュースに加えて、新しい情報を可能な限り迅速にしかも低コストで会員施設の隅々にまでお届けできるよう、新たな手段の検討を始めました。広報委員会は、会員施設の皆様と歩んできた協議会の歴史を大切にしながら、熱意を以て新しい道も臆せず進みます。委員一同、今年も皆様とのつながりをいちばんに、情熱と誠意と信念を掲げて協議会の広報活動に力を尽くします。皆様からのご要望やご意見が前進の糧となります。よろしくお願い申し上げます。

広報委員会では、全国各地で開催される支部会の報告・研修会報告記事を募集しています。

【記事】600 ～ 800字　【写真】１枚

こちらのメールアドレスまでお送り下さい。E-mail：byouji@oita-kodomo.jp

あり方委員会

委員長　稲見　誠
いなみ小児科 病児保育室ハグルーム

昨年の理事会で「あり方委員会」の設置が決まり、私が委員長を拝命しました。

本委員会は、内閣府や厚生労働省と病児保育事業の改善や協議会会員の利益になるような事項について折衝を行います。また、本委員会は将来を見つめた協議会や病児保育事業のあり方を検討するものです。10月に大川会長と稲見の２名が厚生労働省保育課長と局長に面談し、協議会の意見や希望を伝えてきました。出来たばかりの委員会ですが、会員の皆様のためになる活動をしていく所存ですので、よろしくお願いいたします。

保育園型プロジェクト

リーダー　本田　直子
ゆうゆうくじら保育園 病後児保育室「くじらのおうち」

保育園は、行政・学校関係・医療関係や各施設や近隣地域の中で、様々な方々との連携を大切に、安心安全を第一に「子どもが子どもらしく・保育者が保育者らしくあるために」保育を実践しています。

「子ども・子育て支援制度」施行２年目を迎えました。「子どもの最善の利益」を目指すものですが、「待機児童問題」が騒がれる事はあっても「子どもの育ち」を中心とした議論は、まだまだおろそかにされているように思います。

「また、あした」

先生さようなら、皆さんさようなら…毎日１人一人リズムよく挨拶し園児たちは帰宅します。

子どもたちが「また、あした」と、明日を楽しみに登園してくることを願い、朝、今日も出会えた嬉しさに、今日もどんなことをして遊ぼうかな～と、「また、あした」のために、いい保育がしたい、そのための準備を怠らない、日々が、その繰り返し、子どもたちの満たされた顔に出会うために…

新潟大会は、２施設の方に実践発表頂き、グループ討議を「病児保育の心」とし、子どもと保護者、保育園職員、地域等に寄り添う姿、何を大切にしているか等を意見交換しました。共通する悩みや課題が多い中、自園の問題点・解決策等、保育園併設だからできる一貫性を持った保育看護を大切に出来る等々、施設を見直す機会となりました。

大阪大会では、実践発表とグループワークを柱に様々な「連携」を深めたいと思います。

病児保育川柳 Part 2

元気かな？ うわさをすれば でんわ鳴る　愛媛県 キッズハウス
「またくるね」 うれしいけれど 待たないよ　広島県 くじら病児保育室
「もう一杯！」 おかわりないよ お薬は　福岡県 病児保育室ぞうさんの家
「いえみたい」 くつろぐこども いきいきと　佐賀県 病児病後児保育室しろくまくん
熱が出た ぞうさん行くから 大丈夫　長崎県 病児保育室ぞうさんルーム
もうよかろ 汗じゅっくりで 泣き叫ぶ　熊本県 みるく病児保育室
病児保育 絶対禁句の またおいで　熊本県 病児保育エミー
保育園 スタートするや 病児デビュー　鹿児島県 病児ケアハウス チックタック童夢館

一般社団 全国病児保育協議会 役員名簿

役職	氏名	所属	施設名
会長	大川洋二	東京	大川こども内科クリニック ＯＣＦＣ病児保育室うさぎのママ
副会長	杉野茂人	熊本	杉野クリニック みるく病児保育センター
	佐藤里美	千葉	さとう小児科医院 病児保育室バンビーノ
	髙橋広美	東京	砂原保育園 病後児保育室「とまと」
名誉会長	保坂智子	大阪	保坂小児科クリニック 枚方病児保育室
顧問	帆足英一	東京	ほあしこどもクリニック
監事	青木佳之	岡山	青木内科小児科医院 山陽ちびっこ療育園
	二宮剛美	三重	二宮病院 四日市市病児保育室カンガルーム
感染症対策委員長	佐藤勇	新潟	よいこの小児科さとう 病児保育室よいこのもり
広報委員長	藤本保	大分	大分こども病院 キッズケアルーム
調査研究インシデント管理委員長	荒井宏治	青森	あらいこどもクリニック 病児保育「きりん」
機関誌編集委員長	羽根靖之	三重	医）童心会 よいこ病児保育室
病児保育専士認定委員長	永野和子	熊本	みるく病児保育センター
研修委員長	帆足暁子	東京	ほあしこどもクリニック
倫理委員長	木野稔	大阪	中野こども病院 アリス病児保育室
保育園型プロジェクト委員長	本田直子	埼玉	ゆうゆうくじら保育園 病後児保育室「くじらのおうち」
病児保育あり方委員会委員長	稲見誠	東京	いなみ小児科 病児保育室ハグルーム
理事	荒井宏治	青森	あらいこどもクリニック 病児保育「きりん」
	稲見誠	東京	いなみ小児科 病児保育室ハグルーム
	大川洋二	東京	大川こども内科クリニック ＯＣＦＣ病児保育室うさぎのママ
	佐藤里美	千葉	さとう小児科医院 病児保育室バンビーノ
	向田隆通	愛媛	むかいだ小児科 キッズハウス
	木野稔	大阪	中野こども病院 アリス病児保育室
	佐藤勇	新潟	よいこの小児科さとう 病児保育室よいこのもり
	帆足暁子	東京	ほあしこどもクリニック
	髙橋広美	東京	砂原保育園 病後児保育室「とまと」
	永野和子	熊本	みるく病児保育センター
	羽根靖之	三重	医）童心会 よいこ病児保育室
	原木真名	千葉	まなこどもクリニック ポピンズルーム
	福富悌	岐阜	福富医院 すずらん病児保育園
	藤本保	大分	大分こども病院 キッズケアルーム
	杉野茂人	熊本	杉野クリニック みるく病児保育センター
	宮﨑豊	東京	玉川大学教育学部乳幼児発達学科
	松田幸久	鹿児島	まつだこどもクリニック 森のくまさんの家
	本田直子	埼玉	ゆうゆうくじら保育園 病後児保育室「くじらのおうち」
	綾田敬子	香川	カンナ子育てプラザ21
	吉田雄司	福岡	よしだ小児科医院
	横井透	石川	横井小児科内科医院 病児保育室「こりすの里」
	西岡敦子	香川	西岡医院 病児保育室レインボーキッズ
	横田俊一郎	神奈川	横田小児科医院 病児保育室「Jambo」
	米倉順孝	福岡	福岡中央部病児デイケアベビートットセンター

全国病児保育協議会 委員会構成（平成28年1月1日現在）

常任理事会	荒井　宏冶	稲見　誠	大川　洋二	木野　稔	佐藤　勇	佐藤　里美
	杉野　茂人	髙橋　広美	永野　和子	羽根　靖之	藤本　保	帆足　暁子
	本田　直子					
感染症対策委員会	担当会長　大川　洋二		担当副会長　佐藤　里美		委員長　佐藤　勇	
	荒井　宏冶	川崎　康寛	黒木　春郎	小泉友喜彦	佐藤　勇	帆足　英一
広報委員会	担当副会長　杉野　茂人			委員長　藤本　保		
	岸本　範子	永野　和子	浪岡　千明	原木　真名	藤本　保	
調査研究・インシデント管理委員会	担当副会長　杉野　茂人			委員長　荒井　宏冶		
	荒井　宏冶	伊藤　康弘	佐藤　勇武	西岡　敦子	羽根　靖之	原田　佳明
	帆足　英一	宮崎　豊	向田　隆通	米倉　順孝		
機関誌編集委員会	担当副会長　佐藤　里美			委員長　羽根　靖之		
	稲見　誠	木野　稔	羽根　靖之	原木　真名	藤本　保	帆足　英一
	松田　幸久	横井　透	横田俊一郎	佐藤　貴志		
病児保育専門士認定委員会	担当会長　大川　洋二		担当副会長　佐藤　里美		委員長　永野　和子	
	稲見　誠	木下　博子	永野　和子	羽根　靖之	原木　真名	堀込　聖子
	宮崎　豊	向田　隆通				
研修委員会	担当副会長　佐藤　里美			委員長　帆足　暁子		
	稲葉　穂	今井　七重	江頭　則子	佐藤　勇	渋谷　佳子	原　文子
	福富　悌	藤巻　元美	帆足　暁子	横井　透		
倫理委員会	担当副会長　髙橋　広美			委員長　木野　稔		
	稲見　誠	木野　稔	佐藤　里美	鈴木英太郎	藤本　保	向田　隆通
	坂井田大洋					
保育園型PT	担当副会長　髙橋　広美			委員長　本田　直子		
	綾田　敬子	井崎　和夫	岩井美恵子	坂元和可子	遠山　法子	原　文子
	本田　直子	山田　静子				
病児保育あり方委員会	担当会長　大川　洋二			委員長　稲見　誠		
	稲見　誠	木野　稔	藤本　保	帆足　英一		

（50音順）

一般社団法人全国病児保育協議会　総会議事録

１．　開会

日時：平成２８年７月１７日　１６：４０～１７：４０

場所：朱鷺メッセ・新潟コンベンションセンター　第２会場３０１

２.定足数確認および議事録署名人指名

議長の指示により、事務局から、社員総数60名中、本日39名出席、委任状出席10名、計49名の出席により､本会議が定足数を満たし適法に成立している､との報告があった。議事録署名人として、羽根靖之、原木真名が指名された。

出席理事：荒井宏治　綾田敬子　稲見誠　大川洋二　木野稔　佐藤里美　佐藤勇
高橋広美　永野和子　西岡敦子　羽根靖之　原木真名　本田直子　藤本保
帆足暁子　松田幸久　米倉順孝　横井透　吉田雄司

出席監事：青木佳之　二宮剛美

議　　長：稲見誠

３.会長挨拶

４.審議事項

第１号議案　新役員の承認を求める件

１．代議員は、昨年度総会で認められた通り、現支部長と理事及び監事とする。
２．会長の交代　稲見会長より理事の大川洋二氏が推薦され承認された。
３．新理事の推薦
新理事候補者横田俊一郎氏を含む理事、監事の選任につきその賛否を議場に諮ったところ、満場一致をもって下記のとおり承認可決された。

理事：荒井宏治・稲見誠・大川洋二・佐藤里美・向田隆通・木野稔・佐藤勇

帆足暁子・高橋広美・永野和子・羽根靖之・原木真名・福富悌・杉野茂人

宮崎豊・松田幸久・本田直子・綾田敬子・吉田雄司・横井透・西岡敦子

米倉順孝・藤本保

監事：青木佳之・二宮剛美　　名誉会長：保坂智子　　顧問：帆足英一

第２号議案　平成 27 年度事業報告の承認を求める件

議案書に基づき各担当理事が平成 27 年度の事業報告の内容について説明を行った。

１. 研究大会・理事会・常任理事会

２. 平成 27 年度委員会・ＰＴ事業報告

①研修委員会（帆足暁子委員長）

②資格認定委員会（永野委員長）

③感染症対策委員会（大川委員長）

④広報委員会（藤本委員長）

⑤調査研究・インシデント管理委員会（荒井委員長）

⑥倫理委員会（木野委員長）

⑦機関誌編集委員会（原木委員長）

⑧保育園 PT（高橋委員長）

３. ブロック・支部活動報告

平成２７年度は以下のブロック・支部会が行われた。

H27 年度支部会

	支部合同研修会名		
1	大阪支部定例会	8	千葉県千葉支部合同研修会
2	大分県支部研修会	9	香川県支部スタッフ研修会
3	北東北病児保育室交流会	10	神奈川県支部会
4	四国ブロク研修会	11	東京支部合同研修会
5	愛知ブロック交流集会	12	石川県病児･病後児保育研修会
6	北部九州ブロック研修会	13	静岡県支部会
7	埼玉県病児保育施設連絡会		

平成 27 年度事業報告について満場一致で承認された。

第３号議案　平成 27 年度決算報告の承認を求める件および監査

議案書に基づき、いなみ小児科の会計士勢島氏より報告された。

経常収益には影響しないが事業収益、全国研究大会、財務収益の値が仕訳変更の関係で修正されたことが報告された。

事業報告、理事職務、賃貸対照表、損益計算書、財産目録の内容について説明を行った。次いで、二宮剛美監事・青木佳之監事が監査報告を行った。

議長が議場に諮った結果、本議案は満場一致で可決承認された。

第４号議案　事務局外部委託の承認を求める件

平成 27 年度は、事務局業務の一部（会員管理・会計業務）を日本小児医事出版へ外部委託したが、平成 28 年度より全面的に移行する。

議長が議場に諮った結果、本議案は満場一致で可決承認された。

第５号議案　定款施行細則の承認を求める件

１、定款細則の変更

・定款細則第 4 章第 6 条に、「委員会委員長は理事が担当し、委員長は常任理事に就任する」を加える。また委員会には副会長が担当として配置さる。

・交通費宿泊費規定　資料４全国病児保育協議会定款施行細則第７条のごとく改定した。

・総務、経理担当理事を新設する。

議長が議場に諮った結果、本議案は満場一致で可決承認された。

第６号議案　平成 28 度事業計画および予算案の承認を求める件

議案書に基づき各担当理事が平成 28 年度の事業計画の内容について説明を行った。

１、各委員会・PT より

①研修委員会（帆足暁子委員長）
②資格認定委員会（永野委員長）
③感染症対策委員会（大川委員長）
④広報委員会（藤本委員長）
⑤調査研究・インシデント管理委員会（荒井委員長）
⑥倫理委員会（木野委員長）
⑦機関誌編集委員会（原木委員長）
⑧保育園 PT（高橋委員長）

２. 平成 28 年度予算書

次いで会長が、平成 28 年度予算案の説明を行った。

議長が議場に諮った結果、本議案は満場一致で可決承認された。

第７号議案　顧問弁護士と契約

現在の社会状況により、一般社団法人として顧問弁護士の必要性があり、下記弁護士と契約する。

中村・安藤法律事務所
弁護士：坂井田　大洋
議長が議場に諮った結果、本議案は満場一致で可決承認された。

第８号議案　その他

・現在の税理士が退任を希望されており、新しく税理士との契約が必要となる。
・副会長人事：大川洋二⇒杉野茂人、永野和子⇒高橋広美、佐藤里美留任
・支部会の補助金について
議長が議場に諮った結果、本議案は満場一致で可決承認された。

５．事務局より

議案書に基づき、事務局は報告内容について説明を行った。

以上をもって、本日の議事を終了したので議長は閉会を宣言した。
上記決議を明確にするため、本議事録を作成し、定款第２１条のとおり会長及び議事録署名人が次に記名押印する。

平成 28 年 7 月 17 日

議事録署名人：会長・議長　稲見　誠　稲見　誠

議事録署名人：　羽根　靖之　羽根靖之

議事録署名人：　原木　真名　原木真名

比較損益計算書

自 平成27年 6月 1日

至 平成28年 5月31日

科目	予算額	決算額	差異	執行率
【経常損益の部】				
経常収益	38,835,200	34,300,307	-4,534,893	88.3%
[事業収益]	[38,828,200]	[33,972,596]	[-4,855,604]	87.5%
(会費収入)	(14,490,000)	(15,395,000)	(905,000)	106.2%
入会金	520,000	450,000	-70,000	86.5%
年会費	13,870,000	14,415,000	545,000	103.9%
賛助会費	100,000	530,000	430,000	530.0%
(書籍販売)	1,738,200	3,054,430	1,316,230	175.7%
(広告収入)	500,000	0	-500,000	0.0%
(資格認定収入)	2,100,000	1,595,800	-504,200	76.0%
(全国研究大会)	20,000,000	13,927,366	-6,072,634	69.6%
[財務収益]	[7,000]	[327,711]	[320,711]	4681.6%
受取利息	4,000	3,293	-707	82.3%
雑収入	3,000	324,418	321,418	10813.9%

科目	予算額	決算額	差異	執行率
経常費用				
[事業費用]	[36,320,000]	[32,941,348]	[-3,378,652]	90.7%
(全国研究大会)	(20,000,000)	(16,024,226)	(-3,975,774)	80.1%
(研修委員会)	(400,000)	(392,002)	(-7,998)	98.0%
(広報委員会)	(500,000)	(1,755,185)	(1,255,185)	351.0%
(機関誌委員会)	(100,000)	(0)	(-100,000)	0.0%
(調研・ｲﾝｼﾃﾞﾝﾄ委員会)	(520,000)	(352,833)	(-167,167)	67.9%
(ｲﾝｼﾃﾞﾝﾄ管理ｼｽﾃﾑ運用支援費)	(1,250,000)	(723,600)	(-526,400)	57.9%
(感染症委員会)	(300,000)	(170,961)	(-129,039)	57.0%
(資格認定委員会)	(2,855,000)	(2,884,910)	(29,910)	101.0%
(倫理委員会)	(100,000)	(0)	(-100,000)	0.0%
(保育園PT)	(100,000)	(44,876)	(-55,124)	44.9%
(自己評価PT)	(100,000)	(0)	(-100,000)	0.0%
(事務局)	(10,095,000)	(10,592,755)	(497,755)	104.9%
印刷費	4,700,000	4,707,352	7,352	100.2%
旅費交通費	1,000,000	1,054,640	54,640	105.5%
通信費	400,000	440,834	40,834	110.2%
租税公課	20,000	65,985	45,985	329.9%
事務用品費	50,000	243,342	193,342	486.7%
広告宣伝費	25,000	0	-25,000	0.0%
支払手数料	1,000,000	2,001,024	1,001,024	200.1%
事務局外部委託費	1,900,000	1,134,000	-766,000	59.7%
会議費	300,000	41,124	-258,876	13.7%
支部研修会費	700,000	875,251	175,251	125.0%
熊本災害支援費	0	29,203	29,203	#DIV/0!
経常利益金額	2,515,200	1,358,959	-1,156,241	54.0%

科目	予算額	決算額	差異	執行率
[経常外収益]	[3,500,000]	[5,087,805]	[1,587,805]	145.4%
期末書籍棚卸戻入益	3,500,000	5,087,805	1,587,805	145.4%
[経常外費用]	[4,368,704]	[4,368,704]	[0]	100.0%
期首書籍棚卸繰入損	4,368,704	4,368,704	0	100.0%
経常外利益金額	-868,704	719,101	1,587,805	-82.8%
税引前当期純利益金額	1,646,496	2,078,060	431,564	79.2%
法人税等	2,000,000	1,030,000	-970,000	51.5%
当期純利益金額	-353,504	1,048,060	1,401,564	-296.5%
前期繰越額	5,733,457	9,888,423	4,154,966	172.5%
次期繰越額	5,379,953	10,936,483	5,556,530	203.3%

監査報告書

一般社団法人全国病児保育協議会

会長　稲見　誠　殿

平成２８年７月８日

監事　二宮剛美

私　監事の二宮剛美は、定款第２５条により平成27年6月1日から平成28年5月31日までの事業年度の理事の職務の執行を平成28年6月30日と7月8日に監査をしました。

監査の方法および内容

重要な会議である理事会及び常任理事会に出席し、通信文を閲覧し、必要に応じて説明を求めました。事務局外部委託の初年度にあたり、委託業務の契約履行状況を受託業者においても監査をしました。

一、　事業報告は、定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

二、　理事の職務の執行に関する不正の行為、または法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

三、　貸借対照表、損益計算書（正味財産増減計算書）は会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支状況及び財産状態を正しく示しているものと認めます。

四、　外部業務委託に関して、今後更に業務委託を進めるにあたり、受託業者側の実務処理の理解と改善、及び実務実績に合った契約料の支払いが望ましい。

尚、決算報告書については、鵜殿知夫税理士事務所の確認済みです。

以上

監査報告書

一般社団法人全国病児保育協議会

会長　稲見　誠　殿

平成２８年７月８日

監事　青木佳之

私　監事の青木佳之は、定款第２５条により平成27年6月1日から平成28年5月31日までの事業年度の理事の職務の執行を平成28年6月30日と7月8日に監査をしました。

監査の方法および内容

重要な会議である理事会及び常任理事会に出席し、通信文を閲覧し、必要に応じて説明を求めました。事務局外部委託の初年度にあたり、委託業務の契約履行状況を受託業者においても監査をしました。

一、　事業報告は、定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

二、　理事の職務の執行に関する不正の行為、または法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

三、　貸借対照表、損益計算書（正味財産増減計算書）は会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支状況及び財産状態を正しく示しているものと認めます。

四、　外部業務委託に関して、今後更に業務委託を進めるにあたり、受託業者側の実務処理の理解と改善、及び実務実績に合った契約料の支払いが望ましい。

尚、決算報告書については、鵜殿知夫税理士事務所の確認済みです。

以上

第２回 静岡県支部（研修・交流）会報告

平成28年２月27日土曜日午後に、静岡県浜松市の浜北医師会で第２回静岡県支部会を行いました。医師３名を含む、計28名の参加でした。

プログラムは①簡単な自己紹介、②各施設の工夫（おんぷ、さくらんぼルーム15分ずつ）、③ワールドカフェ「子どもにとっての病児保育～子どもの笑顔をみるために」、④講演「保育室でひきつけをおこしたら」担当：北西史直、「インフルエンザへの対応」担当：櫻町俊二先生、⑤懇親会でした。

①昨年と比べ参加者が２倍以上となり、自己紹介は簡単に済ませました。

②２施設から、事前登録、入室時、退室時の工夫、感染対策、安全対策、年長者への工夫、住民への広報などをプレゼンテーションし討論を行いました。開設準備中の施設や病後児保育施設などから様々な質問がありました。

③病児保育事業は、子育て支援からの視点が多くなりがちですが、子どもにとっての視点で病児保育のあり方をワールドカフェのスタイルでディスカッション（ダイアログ）しました。参加者全員ワールドカフェの形式は初めてで、企画者の意図通りに進まなかった部分もありますが、「不安に対してはとにかく抱っこが重要」「事前登録では本人も見学する」「入室時の不安に配慮する」「何か作品を作り、おみやげにする」「おもちゃや絵本の工夫をする」など様々な意見がでました。

④医師によるミニレクチャを行いました。「けいれんを起こしたら、時間の確認が大事」、「５分が重要、５分すぎたら救急車」、「安全な場所でけいれんの様子を観察」、「インフルエンザの感染予防と標準予防策」「ＡとＢの同室についての考え」「インフルエンザの診断や感染対策の限界」などのキーワードがありました。

⑤ミニレクチャ終了後、直ちに参加者が輪（厳密には四角）になり、食事をしながら、懇親を深めました。

昨年は参加施設が２つ（参加者12名）で、こじんまりとした会でしたが、今年は開業準備施設を含め、９施設の参加になり、県支部会の恰好になってきました。参加施設が増えると、にぎやかな半面、発足当初からの施設にとっては寂しい部分もありますが、少なくとも年に１回はこのような催しを続ける中、参加施設を増やしていき、静岡県の病児保育の発展につなげていきたいと思っております。

病児保育室 おんぷ　**北西　史直**

平成27年度
病児・病後児保育の実績調査にご協力ください!!

ニュース86号に同封しております、「平成27年度 病児・病後児保育の実績調査」は、省庁等に病児保育の実態を説明するに当たり、とても重要な資料になります。

同封の文章をお読みいただき、インターネット又は、ＦＡＸにてご回答いただきますようお願い申し上げます。

第27回 全国病児保育研究大会 in 大阪

大会のごあんない

開　催　日:平成29年7月16日(日)17日(月・祝)
会　　場:大阪市中央公会堂・AP大阪淀屋橋
大会テーマ:これからの病児保育
－大切にしたいこと、始めていくこと－

会　　頭　木野　　稔（社会医療法人 真美会 中野こども病院 理事長）
実行委員長　原田　佳明（医療法人 協仁会 小松病院）
大会ホームページ:http://web.apollon.nta.co.jp/hoiku2017/

プログラム概要（予定）

○会頭要望シンポジウム
「これからの病児保育 －大切にしたいこと、始めていくこと－」
シンポジスト　大川　洋二（大川こども内科クリニック院長）　稲見　誠（いなみ小児科）
藤本　保（大分こども病院）　木野　稔（中野こども病院）

○特別講演「絵本ライブ」　長谷川義史（絵本作家）

○教育講演「温かく丁寧な支援とは～支援者がいきいきと仕事をするために～」
津村　薫（女性ライフサイクル研究所felien副所長、講師）

○教育講演「こどものかぜ」　西村　龍夫（にしむら小児科）

○市民公開講座
「少子化時代の育児と就労を支援する －大切にしたいこと、推進していくこと－」
吉田　学（厚生労働省雇用均等・児童家庭局長）　泉田　友紀（読売新聞東京本社労務部両立支援課長）

○ワークショップ
スタッフ研修・家族支援、事例検討、薬、急変時対応、保育、虐待、発達障がい・発達支援、病児保育専門士向け等多数準備しています。

【事　務　局】
社会医療法人 真美会 中野こども病院　〒535-0022 大阪市旭区新森4-13-17

【運営事務局】
株式会社 日本旅行 西日本MICE営業部
（株式会社日本旅行 西日本MICE営業部内）
〒530-0001 大阪市北区梅田1-11-4 大阪駅前第4ビル5階
TEL:06-6342-0212　FAX:06-6342-0214
E-MAIL:hoiku2017@nta.co.jp

編集後記

新年号として、会長はじめ各委員長抱負を掲載いたしました。究極の育児支援としての「病児保育」の輝かしい1年に期待して、協議会活動へのご協力をお願いいたします。
（広報委員長　藤本　保）

協議会ニュースに関するお問い合わせ先
一般社団法人 全国病児保育協議会 広報委員会
担当：藤　本　　保
〒870-0943 大分市大字片島83-7
大分こども病院
FAX.097-568-2970
E-mail:byouji@oita-kodomo.jp

Printed by AIKOHA